

JAPAN GAME FISH ASSOCIATION



Vol.44/No.2
SUMMER 2023

JGFA NEWS

FRESHWATER, SALTWATER AND FLY FISHING

WITH BANS LIFTED ISSUE

小菅綾香さんインタビュー

Ayaka Kosuge Talks Angling and Resources

記録報告

New Japan/World Records

タグ&リリース年間功労者

T&R Annual Award

IGFA ルールについて

Interpretation of IGFA Angling Rules

And more



私たちが使用する IGFAルールは、法律文書などと違ってとても短いものです。イヤーブックに掲載されている日本語訳は、図版を入れても13ページくらいしかありませんから、簡単に通読できます。IGFAは、記録管理を行う団体ならそうならざるを得ないと思いますが、伝統を重んじる姿勢を崩しておらず、文言でガチガチに規定するよりは理念をじゅうぶんに理解してもらって、細かなところの判断は伝統と「フェアネス」の理念、それに加えて常識を適用してくださいね、というスタンスです。

今回、IGFAルールのオールタックル部門記述に文言が付け加えされました。将来的な誤解を生み出さないためということですが、常識を適用すればその妥当性は納得していただけることだと思います。

全世界に膨大な数のメンバーを擁するようになった現在も、気心の知れた仲間たちの間で100年前に通用していた不文律の名残が見て取れ、性善説に基づく記録管理を行っているというのは、考えてみればすばらしいことではないでしょうか。



WITH BANS LIFTED ISSUE

TABLE OF CONTENTS

巻頭のことば 01

小菅綾香さんインタビュー 03

RECORD PAGE 07

IGFA ルール改正 00

ライジャケ・パート有効期限 12

タグ&リリース年間功労者 13

Cover photography by Masahiro Ota



海がつなぐ縁、指示す道筋

The Career That The Ocean Showed

小菅綾香さんといえば、三浦の遊漁船「丸十丸」を実家として生まれ、幼少のころから海に親しんだ筋金入り。

アングラーとしてもメディアに頻繁に取り上げられ、最年少のJGFAアンバサダーとしても活躍されている。

大学院を卒業後、新聞社に就職されたと伺い、インタビューを申し込んだ。



壱岐の海女さんと。大学時代の旅で知り合い、刺激を得た

JGFA:以前、東京海洋大学の学部に通い始められた小菅さんを取材させていただいて、もう5年くらい経つのでしょうか。月日は流れますね。

小菅綾香:そうですね!

JG:まずは今のお仕事に関して伺いたいのですが、ジャーナリズムの世界に進まれたと聞き及んでおります。

AK:はい。水産系の日刊総合紙である「水産経済新聞社」の記者として働いています。やっと1年経ちました……。厳密に担当分けをされてはいないのですが、三崎の冷凍メバチの市場動向、神奈川県全体の水産関係ニュース、それにブルーカーボンなどに関する報道に携わっています。

JG:ブルーカーボンって、初耳なのですが、いったいどんなものですか？

AK:海の生態系に取り込まれて蓄積される炭素のことです。つまり、すでに排出

されてしまった二酸化炭素を海が吸収したぶんと考えるとわかりやすいですかね。また、遊漁に関する資源管理に関しても連載を始めようと準備している段階です。

JG:環境から食、流通、釣りといった、相当な広範囲にわたるお仕事とお見受けします。

AK:新人のうちの仕事の割り振りは、とくにそうなんだと思います。資源管理関係のテーマ、たとえばTACと呼ばれる「各魚種の漁獲可能量を考慮した制度」の取材にも行くようになってきました。会社にも、実家の仕事を理解してもらっています。

JG:記者のお仕事は、ご実家の遊漁船業とも深くつながるものですね。

AK:私は魚と釣りが大好きなので、大きなビジョンとしては、どうやったらそれらが将来も維持できるだろうと考えています。しかし釣りという枠の中だけで活動していくても、達成できないことがありますんで

すね。遊漁船、漁師さん、そして水産業という、より大きな枠を視野に入れたほうが良いと思いましたので、まずは自分の技というか切り口を探さないといけないなと思ったときに、発信力を身につけられる新聞社というのが魅力的でした。皆さんのお話を聞くのも好きですし。実家の遊漁船で乗り子をやっているときも、接するのは圧倒的に年上の男性が多かったですから、いまの仕事の役に立っています！

JG:キャリア設計がきちんとできていますね。発信者としての役割を自認されているとは……。

AK:これまで、釣りの楽しさをより多くの人に伝えたいという気持ちはあったのですが、それがより広がった感じです。

JG:釣り人の立場から発信したいという人は多いのですが、たとえば遊漁船の人や漁業者の方々から発信される内容というのは少ないですよね。貴重な人材です。さっきの話ですが、何歳くらいから丸十丸に乗っていらっしゃるんですか？

AK:4歳からです。最初は五目釣り、たくさん釣れたのが楽しかったのを覚えています。私は長女で、1つ下に妹がいるんですが、母親が2人面倒みるのが大変ということで、父が海に連れ出したというのが実際のところらしいです。でも私が小さくて船べりまで体が届かず、父が専用のスノコを作ってくれて、その台の上で釣りをしていました。褒めてもらえるのが嬉かったです！

JG:釣りがいやになったことは、ないんですね？

AK:じつは、早起きが苦手なんです。いやだな、行きたくないなっていう気分のこともあったんですが、父と約束した手前すっぽかせない。そういうときに限ってとっても釣れたりしますから、帰るときにはいつも「楽しかった、やっぱり行ってよかつた！」と思っていました。そんな子供時代を

過ぎ、徐々に父の手伝いをすることも増えていましたが、就職したいまは、また違う付き合い方をしています。

JG:妹さんも、お父様とは別の船で、船長さんになられたんですね?

AK:はい、キャバクラでの勤めを経て、3年前に実家の釣り船に戻ってきました。私が休みの日は妹が出船にいつしょに乗ったりしています。三女も免許を取り、遊漁船主任者の講習も受けましたので、私が行かないときは次女と三女で船を出すという形です。次女は、SNSで釣果を発信しています。写真の撮り方もいま風で上手ですね。あまり釣り船の世界にないキャラクターなので、テレビなどのメディアのお仕事もお声かけいただいているようです。

JG:話を戻して……東京海洋大の大学院では、なにを勉強されたんでしたっけ?

AK:水産経済系の研究室にいました。修士論文は遊漁船のマーケティングに関するもので、顧客満足度調査をもとに執筆しました。クロマグロ関連の問題をきっかけに、遊漁船も資源管理の枠に入れていくという動きが始まっていて、他の魚種に関しても導入が検討されるのではないかと考えています。つまり、行政が定めるバッゲリミットが現実味を帯びてきて、釣り放題から脱却せざるを得なくなるのではないかでしょうか。お客様の姿も変わってきているので、すでに主流は釣果至上主義からズレてきている可能性もあるのですが……。そんな時代、遊漁船業者はどうやって生き残っていくのかと考えたときに、サービス業の本質に立ち返って、お客様の満足度を高める方向に舵をきらないといけないと思いました。さまざま要素の中で、なにが満足度に結びつくのかを調査したんです。

JG:調査対象は、丸十丸さんだけではなく、他の遊漁船さんも巻き込んで?

AK:エリアとしては神奈川、東京、千葉の10軒ほどの船宿さんにアンケート用紙を置かせてもらい、各お客様が記入された用紙を郵送で返信していただきました。まだコロナ禍下であったのにもかかわらず、1ヶ月くらいで250通ほどのご回答が集まりました。

JG:コロナ禍って、さまざまなものに甚大な影響を与えましたが、その小さな影響



実家のネネで、カワハギを釣る。すでに手練れ?



三重県の海女小屋にて。海を大事に思う人同士、話が弾むひととき



大ヒラメ。身長に迫る全長、確実に妹さんよりも大きい

の1つにちょっとした釣りブームってありましたよね。近場の手軽な気分転換と、自分が食べる物を釣るという収穫行為の組み合わせです。私たち JGFAは、そこも大事にしつつ次のステップとして、次世代につなげていくための自主規制をずっと提唱してきたわけですが、どうもこの数年、スポーツフィッシングを取り巻く雰囲気がすこし逆戻りをしたような印象なんです。

AK:スポーツフィッシングって、どういう定義なんでしょうか?

JG:「いわゆるスポーツのように、肉体をフル活用して大魚を釣る」の意味はなくて、アマチュアの釣りということしかありません。「ゲームフィッシング」という用語も誤解されがちですが、これも「ゲームのように釣りをする」ということではなく「趣味対象として受け入れられている魚を釣る」という意味しかないんです。根本要素は、プロに対するアマチュアということなんです……。話を戻すと、コロナ禍をきっかけに「この魚食べられますか?」「おいしいですか?」っていう問い合わせが、世間でとっても多くなつたような気がします。もちろん私だって、大きなカワハギが釣れたら何尾かはいただきますし、ハゼ釣りに行つたらてんぶらにします。だけど、全体を見渡して、常識と想像力を働かせて、各人がリミットを決めるべきだと思いますね。ただ、ここ数年で水産行政が変わり始めた影響は内水面(淡水)の釣り場管理にも出始めていると思います。

AK:ちなみに、どんな方向なんですか?

JG:漁協の人たちも各地方自治体の人たちも、釣果主義でない釣り人がいるということに気づきはじめました。私がよく分かることは神奈川県の例なんですが、キャッチ&リリース区間の成功が大きいですね。箱根の芦ノ湖から流れ出る早川などは、大涌谷から出る温泉水の影響でアユ釣りは

厳しいのですが、海に至るまで人家密集地帯を流れる事はないので、ニジマスやヤマメのキャッチ&リリース区間を作つて盛況です。相模川水系の中津川も、今年からキャッチ&リリース区間をさらに拡大し、たいへん盛り上がっています。いつ行っても魚がいる川作りが、そうとう成功していると思います。漁協の人手不足と老齢化、経営内容の悪化は大きな課題なんですけど……。昨今では、アユのルアー釣りを認める川が続々と出てきていて、各漁協さんの「時代に即したことやらないと!」というお気持ちを感じます。なんか、逆に小菅さんにインタビューされていますね(笑)。

AK:いやいや、私もまだまだ勉強中の身なので!



クロダイ



イシダイ



メダイ

JG:でも、これだけ釣り文化が多様化している日本なので、資源意識とある程度のデータは、釣りをする人なら持っていたいものですね。行政的な決まりや指針がまだ追いついていないことも、それらをもとに、自分の判断で持ち帰り量を制限して欲しい。下げることはとっても難しいんです、なぜなら私たちは右肩上がりをずっと体験していましたから。でも、下げないといけない時代なんです。

AK:かなりの数の船宿さんでやっている「短い時間の釣り」が人気になっているのも、都心に暮らす人たち、ご家族で食べるぶんが少なくてすむ人たちが多数いらっしゃるからだと思います。

JG:コストパフォーマンスの話をされると、とっても厳しくなるんですよね。そもそもアマチュアの釣りって、コストパフォーマンスの領域の外、趣味の世界にあって、経済的に正当化なんてできないんですから。奥様が家で待っていらっしゃるとしたら、釣りから帰宅した旦那さんはかならず怒られる運命なんです。

AK:アマチュアの釣り人も、受益者として、何らかの形で資源管理にたずさわる義務がありますよね。まずはその意識を持っていただくのが、いまの釣りを取り巻く課題かな。

JG:多方面にキャンペーンが張るべきでしょうね。でも、遊漁船の船頭さんも、だんだん変わってきたという実感がありますよ。そんな意識のある船宿さんとも歩調を合わせて、より良い釣りを実現していくんですね。

AK:丸十丸でもご協力していたタグ&リースですが、ホームページでも宣伝して

そうとう認知度が上がっていました。ちいさいカワハギが釣れてしまったらイケスに入れもらって、私たちがタグを装着して放流する、という仕組みですね。そんな魚が釣れた時には、楽しく盛り上がります。「船長、タグ付いてますよ!」っていう声がよく上がりました。

JG:関与感は大事ですよね！ 船長さんも、よい感じでガイド役をしてもらう嬉しさです。「3番さん、上手だからだいぶ釣りましたよね？ 小さいの、そろそろ逃がしてくれません？」とか。海外の状況がつねに最高だとは思わないでけれど、プロのガイドさんにはほんとうにそのへんがうまい人が多いです。「いまのキャスティング、最高！ 釣れないしたら魚がないから！」とか言います。おべんちゃらというわけではなく、自然な会話のやりとりで、サービス業本来の姿を実現していると言いますか、ね。

AK:丸十丸も目指しているところはそこで、ある程度のところをクリアすると釣れるかどうかは運次第なので、まずは楽しい体験を作り出すことがテーマですね。私も妹も、お客様が釣れたら大拍手です！

JG:昔ながらの船だと、ダメ出しは来ますが、ほめてはくれないです……。でも、接客感覚を持った船頭さんがたくさん出てくれれば、それは楽しいでしょう。あとは、エキスパート主義から脱却するのは大テーマですね。始めたての人も、キャリア20年だけど万年ビギナー級の人も、釣りを楽しむ権利は等しくあるわけです。向上心なんて必須じゃないですし、釣れなくて船頭さんに怒られる理由なんて、なにもない。逆に釣りがうまくても、エ

ラくもなんともない。

AK:エキスパート主義って、新しいお客さまに入ってもらうときの障壁にもなっていますよね。

JG:そう思います。私なんかも、沖釣りは各魚種ごとに年数回、つまり万年ビギナーなので、超絶うまくなることは諦めて、下手な状態を楽しもうと思っています。ちなみに綾香さんは、いまの釣りの世界がどう変わっていって欲しいですか？

AK:やはり、資源のほうにもっと目を向けてもらいたいんですが、のために業界サイドがもっと発信力を持ち、釣り人の皆さんを自然に導くような動きが必要と考えています。たとえば、港でゴミを捨てるなんて問題外の話じゃないですか。エサが足下に散らかったら、水で流して帰るのも常識でしょう？ それと同じように、資源管理も釣り人の“常識”になるような働きかけが必要だと思います。強制力のあるルール作りも平行してやっていかないと、とは思いますが、実際にそんなルールが導入されたときに「そうだよね、決まりは必要だよ」と皆さんが思ってくれための下ごしらえが必要でしょう。地味で基本的な感じはしますが……とっても大事だと考えます。実際に、漁業で資源管理を導入する際にも、魚が多い資源については「なぜ規制を導入しなければならないのか」「必要性を感じない」などの意見が多く挙がります。将来的にも安定した漁獲を期待しての資源管理なのに、そのメリットが感じづらいがために、議論は難航しています。釣り業界もそうならないために、釣り人への意識喚起は早めに取り組むべきでしょう。



知床の防波堤からチョイ投げで



ヌタウナギを目打ちしてさばく



アルバイト先の釣り堀にて

JG:釣り人サイドの、掛け算能力は大事でしょうね。たとえば沖でタチウオ釣りの船団を見かけたとするでしょう？ 1船あたり何人乗っていて、1人平均で何尾釣って、いま何艘のフネが出ていて、シーズンに何日稼働できるかというのをぜんぶ掛け合わせていくと、かなり大きな数字が出てくるでしょう。それが果たして維持可能な数字なのか、確認してみるとよいですね。焼き畑農業的な釣り、つまり1つの魚種が釣れなくなったら別の魚(あるいはイカ・タコ)に行くというのは、もうやらないほうがいいです。次は、まだ誰も手を付けていないワタリガニ釣りでもしますか、という話になりますね。さっきの話ですが、私が万年ビギナーであるアオリイカ釣りなんて、ここ数年成果ゼロです。まえは、ポイッと適当に餌木を投げて引けばズンっと乗ったものですけれど……あまりに釣りたいので、この前はフネまで仕立てタックル買ってやってみたんですが下手なせいもあってオデコ。

AK:資源管理の方向などを関係者らと議論する水産政策審議会で、漁師さんたちからは「なんで遊漁をもっと厳しく管理しないんですか」「釣り人もかなりの量釣っているはずだ」という声が多く挙がります。そのような状況で遊漁者たちの声を、どう届ければよいのか、どうやって調整を行うのかという問題が出てくる可能性があると思います。クロマグロを取り扱う広域漁業調整委員会でも、釣り人の団体4つほどの代表者が参考人として出席していましたが、果たしてそれで釣り人側の意見がうまく反映されるのか、という危惧はありますね。

JG:日本中にいる釣り人の総意を形成するのは難しいでしょうから各団体を参考人として呼んでいると思うのですが、各団体の代表がメンバーの意思を反映した発言ができているかは、いろんな思いの人があることを想定すれば簡単ではないですね。それぞれにバイアスがかかった話しかできないですから……。

AK:会社のお話をさせていただければ、私が入社してから遊漁関連の連載をしようと、取材も組もうという感じになってきました。私のいまの立場は、どちらかといえば漁業に近いところにありますが、いち釣り人としては「業界もちゃんと動いていますよ、魚資源のこと、将来のことを真剣に考えています」という意見を、漁業関係者にも伝えていきたいです。釣り関係の人たちがやっている取り組みは、漁業者にはあまり伝わっていないですよ。そのような、垣根をまたぐ情報発信は私の役目であると自認して、取り組んでいきたいと考えています。

JG:対立の構図はほんとうに望ましくなくて、力を合わせて守っていこうという気持ちが養われなければいけませんね。お互いの目先の取り分、だけの話になってしまふとよろしくない。ご活躍を期待します。ちなみに、実家の釣り以外では、最近どうなんですか？ あんまり趣味の釣りをやっている時間はないでしょう？

AK:大学院の2年間は、海上釣り堀でアルバイトをしていました。大学院の先生が、水産経済を知るために釣り堀を見ておくのも良いとおっしゃったので、三浦にある「みうら海王」を訪問しました。私は地元ですし、家は釣り船ですから、ぜった

いに普通は行かないですよ。でも実際にやってみるととても奥が深くて、釣り堀なりの面白さがわかりました。その日のベストを探って、バッチャリ合うとよくかかり、答えが出やすい釣りです。

JG:イケスに入っているのは、マダイとかワラサとかですか？

AK:15kgくらいのブリサイズもいます。他にはシマアジ、クエ、ヒラメ、イシダイなど。三崎港に水揚げされたメイチダイやアカハタなどを活魚で魚を買い付けて入れることもあります。お客様の数も、とっても多いです。旅先の釣りといえば、和歌山のすさみや加太の遊漁船でマダイやワラサをやらせてもらいました。遊漁船に乗ると、私たちの地元でやっていることとは多々違って、勉強になりました。

JG:太平洋に面した半島の各先端には、面白い釣り文化が残っていますよね。釣り以外のご趣味は？

AK:食と、旅は好きです。大学の時は、1ヶ月以上ある春休みに日本の海岸線をぐるっと回る旅をしました。海岸ではないですが、琵琶湖の「沖島」も印象に残っています。淡水湖の真ん中に浮かぶ小島に小学校があるのには驚きました。

JG:水と魚をいつも見つめている人生ですね。

AK:ほんとうに好きなので！

JG:お仕事お忙しいなか、ありがとうございました。お互い、魚と水と釣りのためにがんばりましょうね！

(東京都八丁堀にて、4月25日に収録。聞き手：東知憲、井上拓也)

NEW JAPAN RECORD GALLERY

WR =世界記録 CR =キャッチ&リリース TR =タグ&リリース AL =オールタックル・レンゲス記録 FAL =オールタックル・フライ・レンゲス記録 W =女性 J =ジュニア 記録

※アカメ、イトウなどの環境省レッドデータブック記載種は、リリース前提での記録申請受付となります。

※コクチバスなどの外来魚の申請は外来生物法の規定にそって受け付けます。外来生物法では規定していないキャッチ&リリースについては、各都道府県でこれを禁じている水域もあり、持ち出しを禁止しているケースもありますので、これらに従うことといたします(2016年7月5日JGFA理事会決定)。

※タイリクズスキに関しては、オールタックル部門および10ポンドシーバスクラブ、年間フィッシングコンテストの対象として申請を受け付けることになりました(2020年4月1日より)。

お願い:記録申請時は、書類、紙焼き写真とともに高画質の写真データもご提出を!

大型魚のデータをできるだけ正確に保存するためですので、ご協力をお願いいたします。メディアの形は問いません。

OFF SHORE <船からの釣り>

<マダイ> MADAI / *Pagrus major*

●M-1kg(2lb)クラス ●3.61kg ●島根県浜田市沖 ●2023/3/19 ●田村 純一 ●個人会員 ●田村丸



田村 純一
<マダイ 3.61kg>
着底から40mほど上げたところで
食ったので余裕を感じていたら、一
気に海底まで走られ若干焦りました



SHORE <岸(磯)からの釣り>

<キハダ> TUNA, yellowfin / *Thunnus albacares*

●M-15kg(30lb)クラス ●39.52kg ●東京都神津島祇園 ●2023/3/27 ●増田 大輔 ●個人会員 ●賀寿丸



増田 大輔
<キハダ 39.52kg>
朝から追風に乗せポッパーを投げ
続けていると屋根にヒット。ファース
トランが短かったので直ぐにリフト
へ移行。途中で数回ほど魚がキック
しようとしてきたので、体勢を崩すと
あっさりと水面まで浮いてきました



森山 祐樹
<コクハニアラ 22.52kg>
頭の大きな魚だと思いました

FRESHWATER <淡水の釣り>

<アメリカナマズ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●M-4kg(8lb)クラス ●3.13kg ●茨城県霞ヶ浦 ●2023/2/19 ●三上 隼平 ●フィッシュ&フィンズ

CR

<アメリカナマズ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●M-6kg(12lb)クラス ●3.91kg ●茨城県霞ヶ浦 ●2023/2/23 ●三上 隼平 ●フィッシュ&フィンズ

CR

<アメリカナマズ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●M-3kg(6lb)クラス ●2.21kg ●茨城県霞ヶ浦 ●2023/2/23 ●三上 隼平 ●フィッシュ&フィンズ

CR

<ブラウントラウト> TROUT, brown / *Salmo trutta*

●M-4kg(8lb)クラス ●2.32kg ●神奈川県芦ノ湖 ●2023/4/1 ●平井 忠 ●個人会員

CR



三上 隼平
<アメリカナマズ 3.91kg>
これまでない強烈な引き、何
とかキャッチできて良かった
です



平井 忠
<ブラウントラウト 2.32kg>
いつか釣ってみたいと願っていた
ブラウントラウトが、日本記録に
なるなんて思いませんでした。こ
の美しい魚を亡き釣友に見せて
あげたかったです。美しい魚達を
育む芦ノ湖に感謝

SALTWATER FLY FISHING <海のフライフィッシング>

<スズキ> SSEABASS, Japanese (suzuki) / *Lateolabrax japonicus*

●M-1kg(2lb)クラス ●4.15kg ●東京湾羽田沖 ●2022/10/28 ●斎藤 悅朗 ●鉄心俱楽部 ●Real Force 6

WR CR

<スズキ> SSEABASS, Japanese (suzuki) / *Lateolabrax japonicus*

●W-8kg(16lb)クラス ●4.22kg ●東京湾羽田沖 ●2022/10/14 ●酒川 郁子 ●個人会員 ●一番星

WR W

<ミナミクロダイ> SEABREAM, Okinawa / *Acanthopagrus sivicolus*

●W-8kg(16lb)クラス ●1.84kg ●鹿児島県奄美大島瀬戸内町 ●2023/1/12 ●諫山 純香 ●個人会員

W



斎藤 悅朗
<スズキ 4.15kg>
やっとスズキの記録
が取れて幸せです



酒川 郁子
<スズキ 4.22kg>
コノシロが水面で
バチャバチャしてお
りボイルも発生して
いました。トップ
ウォーターフライで
釣りました



諫山 純香
<ミナミクロダイ 1.84kg>
大好きなクロダイフライ、16
年ぶりの記録申請はとても
嬉しいです。ナーバスから見
えた背ビレ、フッキングした
瞬間6番のリール逆回転。
しっかりと合わせを入れ、最
高のやりとりを楽しめました

ALL TACKLE <オールタックル日本記録>

<イケカツオ> QUEENFISH, doublespotted / *Scomberoides lyisan*

●オールタックル ●1.35kg ●沖縄県宮古島市狩俣海岸 ●2023/1/14 ●永間 智明 ●個人会員

CR

<イシガキダイ> PARROTPERCH, spotted / *Oplegnathus punctatus*

●オールタックル ●9.64kg ●鹿児島県佐多岬 ●2023/2/23 ●前園 嵩吾 ●個人会員 ●丸好丸

<インドカイワリ> TREVALLY, barcheek / *Carangoides plagiotaenia*

●オールタックル ●0.93kg ●鹿児島県熊毛郡屋久島町西部の地磯 ●2023/2/10 ●山田 帝汰 ●個人会員

WR

<オオヒメ> JOBFISH, crimson / *Pristipomoides filamentosus*

●オールタックル ●1.95kg ●鹿児島県喜界島喜界空港沖 ●2023/2/23 ●浅野 法子 ●ファミリー会員 ●天人菊

W

<オジロバラハタ> LYRETAIL, white-edged / *Variola albimarginata*

●オールタックル ●1.10kg ●鹿児島県喜界島喜界空港沖 ●2023/2/2 ●浅野 法子 ●ファミリー会員 ●天人菊

WR W

<オニヒゲ> ONI-HIGE / *Coelorinchus giberti*

●オールタックル ●1.00kg ●神奈川県真鶴沖 ●2023/1/12 ●西野 勇馬 ●ファミリー会員 ●サン・リリー

WR

<オビブダイ> PARROTISH, yellowband / *Scarus schlegelii*

●オールタックル ●1.07kg ●鹿児島県屋久島吉田堤防 ●2023/3/16 ●坂本 幸博 ●終身会員

CR

<カメレオンブダイ> PARROTISH, chameleon / *Scarus chameleon*

●オールタックル ●0.75kg ●鹿児島県屋久島永田堤防 ●2023/2/5 ●坂本 幸博 ●終身会員

WR CR

<クログチ> CROAKER, blackmouth / *Atrobutta nibe*

●オールタックル ●1.80kg ●大分県佐賀関港沖ホゴ瀬水深200m ●2023/3/31 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●釣吉丸

<クロハギ> SURGEONFISH, yellowfin / *Acanthurus xanthopterus*

●オールタックル ●0.62kg ●鹿児島県屋久島永田堤防 ●2023/1/22 ●坂本 幸博 ●終身会員

CR

<コクハンアラ> CORAL GROPER, blacksaddled / *Plectropomus laevis*

●オールタックル ●22.52kg ●東京都小笠原村母島地磯 ●2023/1/15 ●森山 祐樹 ●個人会員

<ゴマウツボ> MORAY, Yellow-edged / *Gymnothorax flavimarginatus*

●オールタックル ●5.55kg ●鹿児島県屋久島吉田堤防 ●2023/3/16 ●坂本 幸博 ●終身会員

CR

<シロアマダイ> HORSEHEAD, white / *SBranchiostegus albus*

●オールタックル ●3.38kg ●大分県別府湾 ●2023/1/5 ●松本 修 ●個人会員 ●第一 soyamaru

WR

<シログチ> CROAKER, silver (shiro-guchi) / *Pennahia argentata*

●オールタックル ●1.08kg ●佐賀県飯屋湾菖津新波止沖 ●2023/1/15 ●福岡 勝 ●個人会員 ●蒼陽丸

WR

<スジブダイ> PARROTISH, rivulated / *Scarus rivulatus*

●オールタックル ●1.35kg ●鹿児島県屋久島永田堤防 ●2023/1/22 ●坂本 幸博 ●終身会員

WR CR

WR =世界記録 CR =キャッチ&リリース TR =タグ&リリース AL =オールタックル・レングス記録 FAL =オールタックル・フライ・レングス記録 W =女性 J =ジュニア 記録

<センニンフグ> TOADFISH, silver-cheeked / *Lagocephalus sceleratus*

●オールタックル ●4.20kg ●鹿児島県熊毛郡屋久島町安房沖堤防 ●2023/2/4 ●山田 帝汰 ●個人会員

CR

<チゴダラ> CODLING, Japanese / *Coris gaimard*

●オールタックル ●0.95kg ●神奈川県江ノ島沖約400m ●2023/1/15 ●西野 勇馬 ●ファミリー会員 ●FAST 23

WR

<ツユベラ> CORIS, african / *Scarus psittacus*

●オールタックル ●0.47kg ●鹿児島県屋久島永田堤防 ●2023/2/5 ●坂本 幸博 ●終身会員

WR CR

<テンジクイサキ> CHUB, blue sea / *Kyphosus cinerascens*

●オールタックル ●1.30kg ●鹿児島県屋久島永田堤防 ●2023/2/5 ●坂本 幸博 ●終身会員

CR

<ドクウツボ> Moray, giant / *Gymnothorax javanicus*

●オールタックル ●2.20kg ●鹿児島県奄美大島名瀬長浜町 ●2023/2/18 ●重武 凪 ●ファミリー会員

CR

<ハクセイハギ> FILEFISH, whitespotted / *Cantherhines dumerili*

●オールタックル ●0.77kg ●鹿児島県奄美大島古仁屋港 ●2023/2/19 ●坂本 幸博 ●終身会員

WR CR

<ヒメアイゴ> SPINEFOOT, barhead / *Siganus virgatus*

●オールタックル ●0.48kg ●鹿児島県奄美大島古仁屋港 ●2023/2/19 ●坂本 幸博 ●終身会員

WR CR

<ブチブダイ> PARROTSHARK, dusky / *Scarus niger*

●オールタックル ●0.96kg ●鹿児島県屋久島吉田堤防 ●2023/3/17 ●坂本 幸博 ●終身会員

CR

<モンガラカワハギ> TRIGGERFISH, clown / *Balistoides conspicillum*

●オールタックル ●0.75kg ●鹿児島県屋久島永田堤防 ●2023/2/4 ●坂本 幸博 ●終身会員

WR CR

<ユメカサゴ> YUMEKASAGO / *Helicolenus hilgendorfii*

●オールタックル ●0.78kg ●和歌山県那智勝浦沖 ●2023/3/8 ●野崎 真紀 ●個人会員 ●シーカーズ



永間 智明
<イケカツオ 1.35kg>
ダイソールアーでも釣れる
ことを証明できてよ
かったです。弱い魚な
ので急いで計測し慌ただし
かったです



前薗 崑吾 <イシガキダイ 9.64kg>
潮止まりから下げに動き始めた直後で
立ったままでは走りを止められなかつ
たので、座ってひたすら耐えました。疲れと
興奮でした



山田 帝汰 <インドカイワリ 0.93kg>
珍しいアジがボラーで釣れました



浅野 法子
<オオヒメ 1.95kg>
底を2m切って待って
たら強烈な当たりがあり、何度も竿を引き込ま
れました。今まで釣った事がない魚だったので嬉し
かったです



浅野 法子
<オジロバラハタ 1.10kg>
底から1mの範囲を誘って
たら当たりがあり、強烈な引
きが訪れました。強烈な引き
に耐えて少しずつ巻き上げ
た後、姿が見えた時はとても
嬉しかった



西野 勇馬 <オニヒゲ 1.00kg>
これまでの記録を再び更新しました!今後も更に上を目指して水深
1,000m巻きで突き進みます!



坂本 幸博
<オビダイ 1.07kg>
雌相のオビダイを2匹リリースしたあとにヒット!「メスの口に残っていたハリを外してくれてありがとう!」と言って帰っていった気がしました



浅野 俊吾
<クログチ 1.80kg>
大型のアマダイみたいなタタキがあり、水深200mからオモリ100号という仕掛けを手巻きで上げてきたため疲れました



坂本 幸博
<クロハギ 0.62kg>
胸鱗が黄色いのが特徴。サイズにしては引きが強いのでかかると面白い。細ハリスは極力使わず、世界記録級も釣れるよう精進したい



坂本 幸博
<ゴマウツボ 5.55kg>
根に潜り込んだ魚を、立ち位置をずらし力を込めて引っ張り出しました。仕掛けをチェックすると、結びこぶか2個ありローリングもしていた様子。世界記録まであと1kgちょい



福岡 勝
<シロアマダイ 3.38kg>
大潮初日にしては潮があまり動かず、アタリが少ない。2度程ポイントを移動すると小さなアタリ、聞きアワセでフッキング。大切にやりとりして釣りあげました



福岡 勝
<シログチ 1.08kg>
魚の活性が低く、ボトムパンピングで我慢の釣り。そろそろ終わりというときにアタリがあり、水面間近で白い魚影。鯛?と思ったら大きいシログチ。綺麗に口にフッキングしていました



山田 帝汰
<センニンフグ 4.20kg>
大きなフグが釣れました



西野 勇馬
<チコダラ 0.95kg>
3~4年前からこの種類の記録を狙っていたのでようやく更新ができました。今後も新しい深海魚で記録を伸ばしていきます!



坂本 幸博
<テンジクイサキ 1.30kg>
直前に3号ハリスで大型魚に逃げられたあと7号に変更、攻めのやりとりで優勢に立てました。イスズミ系は引きが強いので、3号では切られていたかもしれません



重武 凪
<ドクウツボ 2.20kg>
根に入られ、ねばられた



西野 勇馬 <ハクセイハギ 0.77kg>
アワセ切れを回避する為、弱めにセッティングしていたドラグがかなり出された。中層から浮かせるまでに少々手こずり、ネットインして魚をスケールにのせようしたら、ハリは外れていて間一髪セーフ



野崎 真紀
<ユメカサゴ 0.78kg>
水深400mで良いアタリがあり、上がってきました時はウッカリカサゴかと思ったが、よく見るとユメカサゴであり、その大きさにびっくりしました

ALL TACKLE LENGTH RECORD <オールタックル・レングスレコード>

<ギンブナ> GOLDFISH, Asian / *Carassius auratus langsdorffii*

●レングスレコード ●36cm(又長) ●東京都多摩川 ●2023/3/18 ●下畠 剣一郎 ●フィッシュ&フィンズ

AL CR



AL
CR

下畠 剑一郎
<ギンブナ 36cm(又長)>
天然のナナは綺麗でした。
初めての記録魚、感無量です。
雨の中頑張ってよかったです。



ALL TACKLE FLY LENGTH RECORD <オールタックル・フライ・レングスレコード>

<スズキ> SEABASS, Japanese (suzuki) / *Lateolabrax japonicus*

●フライ・レングスレコード ●81cm(又長) ●東京都羽田沖 ●2022/11/7 ●和氣 恒久 ●サバロ ●一番星

FAL TR

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idellus*

●フライ・レングスレコード ●109cm(又長) ●埼玉県元荒川 ●2022/10/20 ●奥山 文弥 ●フィッシュ&フィンズ

FAL CR



FAL
TR

和氣 恒久
<スズキ 81cm(又長)>
ポッパーにもんどうり打って出ました



FAL
CR

奥山 文弥
<ソウギョ 109cm(又長)>
淡水フライではサーモンや、ステールヘッドが最高のゲームだ
と思っていましたが、灯台下暗し
でした。身近な埼玉県にこういう
巨大魚がいることに驚かされます。
掛けることもファイトも、リリー
スも大変。巨大なラバーネットなど、入念な準備が要りました

JUNIOR RECORD <ジュニア日本記録>

<オオクチバス> BASS, largemouth / *Micropterus salmoides*

●M/ジュニア ●4.36kg ●滋賀県琵琶湖北湖 ●2023/2/2 ●西堀 賴 ●ジュニア会員 ●スキーターFXR20

J

<ギンガメアジ> TREVALLY, bigeye / *Caranx sexfasciatus*

●M/ジュニア ●2.40kg ●鹿児島県奄美大島瀬戸内町久根津 ●2023/2/8 ●重武 凪 ●ファミリー会員

J

<ドクツウボ> Moray, giant / *Gymnothorax javanicus*

●M/ジュニア ●2.20kg ●鹿児島県奄美大島名瀬長浜町 ●2023/2/18 ●重武 凪 ●ファミリー会員

J

<ミナミクロダイ> SEABREAM, Okinawa / *Acanthopagrus sivicolus*

●M/ジュニア ●2.40kg ●鹿児島県奄美大島瀬戸内町久根津 ●2023/2/23 ●重武 凪 ●ファミリー会員

J

<ミナミクロダイ> SEABREAM, Okinawa / *Acanthopagrus sivicolus*

●M/ジュニア ●2.10kg ●鹿児島県奄美大島瀬戸内町久根津 ●2023/2/8 ●重武 凪 ●ファミリー会員

J



西堀 賴
<オオクチバス 4.36kg>
くもり、荒れている、水温
7.5℃、水深3.4m。やっと
4kgをキャッチできました



重武 凪
<ギンガメアジ 2.40kg>
すごくひいてびっくりした。サ
イズが大きくてうれしかった



重武 凪
<ミナミクロダイ 2.40kg>
引きが強かった



世界記録要件に文言が追加されました

このたび、IGFAが使用するインターナショナル・アングリング・ルールの「オールタックル世界記録」セクションに、説明的な文言が付け加えられました。追加された英文は以下の通りです。

All-Tackle record claims for freshwater species must follow the freshwater species Equipment Regulations. All-Tackle record claims for saltwater species must follow the saltwater species Equipment Regulations.

すなわち、海水魚のオールタックル世界記録申請には海水魚向けのIGFAルール、淡水魚には淡水魚向けのIGFAルールが適用されるということです。おそらくほとんどの方が守っていらっしゃることだと思われますが、混乱を予防するために文言を加えました、とIGFAプレジデントのジェイソン・シュラトウイーザーは言っています。



自動膨張式ライフジャケット パーツの有効期限をご存じですか？

釣りを含め、水辺の遊びをするときにはライフジャケットを着用することが強く推奨されています。お子様はもちろんのことですが、大人であっても驚くほど浅い場所で事故は起きます。そして船釣りでは、ライフジャケットを着用していないと処罰の対象となります。レジャー先進諸国の中で、類似の法令が発効しています。

ライフジャケットには、フォームなどの浮力体を内蔵した「固形式」のもの（釣り船に常時装備されているオレンジ色のベストがこれです）と、空気ポンベを使って膨張させる「膨張式」の2種類があります。市場にはさまざまなタイプのライフジャケットが出ていますが、釣りや遊びのスタイルにあった、性能が保証されているものを選ばなければなりません。日本では2018年2月以来、すべての小型船舶の乗船者について、国の安全基準への適合が確認されたライフジャケットの着用が義務化されました。所定基準を満たしたライフジャケットは、国土交通省の検印が押してあり、「桜マークのライフジャケット」といわれます。

JGFAでは2007年からオリジナルの膨張式ライフジャケット（もちろん桜マークつき）を販売していますが、2010年以降に入荷したモデルから、落水した際に水を感知する機能の一部が変わりました。空気ポンベ自体には使用期限はなく、錆びていなければ使えるのですが、水を検知するパーツには有効期限がありますので、定期交換をお勧め致します。期限はおおむね製造から3年で、具体的な日付は購入時のビニールパッケージないしは使用しているカートリッジに印刷されています。とくに以下のモデルはご注意ください。

BSJ-2310(18HR6F) BSJ-2310(MK5) BSJ-2420RS
BSJ-5120RS BSJ-5520RS BSJ-2520RS

JGFAオリジナル・ライフジャケットのカートリッジ交換費用は税込¥1,500 となります。ポンベ交換も必要であれば追加費用が発生します。ご不明な点がございましたら事務局までお問合せ下さい。この機会にお手持ちのライフジャケットを点検して、安心なフィッシングライフをお送りください！



JGFA オリジナルライフジャケット（ベルトタイプ）



JGFA オリジナルライフジャケット（首掛けタイプ）

カートリッジ有効期限／Replace by
2025.06

【2022年度タグ＆リリース年間功労者】

ジャパンゲームフィッシュ協会では、資源保全につながるタグ＆リリースに多大な貢献をした人を毎年表彰しています。受賞者の方からコメントをいただきましたので、写真とともにご紹介します。なお、タグ＆リリース年間功労者の選出に当たりましては、タグの装着数だけではなく、その魚たちが再捕されているかも選考の際に考慮されています。また、タグ＆リリース実施年数も評価の対象です。一方、カジキについては釣るだけでも難しく、それを複数タグ＆リリースしたことでも評価の対象となっています。選考は、釣魚保全委員会が行っています。

選考基準は下記の通りです。

- (1)昨年、候補にノミネートされた人で2022年度も活発に活動された人。
- (2)およそ50尾以上T&Rし、なおかつ再捕実績のあった人。
- (3)数が少なく、釣るのが難しい魚、希少な魚は別立てとする(カジキ、アカメ、イシダイ、など)
- (4)タグ尾数などについては地域性を考慮に入れる。
- (5)T&R推進活動にとくに貢献のあった人。
- (6)一度受賞して5年以上経過した人は改めて候補となる。

2022年度実績

(1)実施人数(トーナメント時を除く):115人(78+カジキ37)。2021年度は117人(87+カジキ30)

(2)放流尾数:3,628尾 (3,470 +カジキ158)。2021年度は4,009尾 (3,855 +カジキ154)

(3)再捕尾数:95尾。2021年度は78尾

2022年度 T&R年間功労者 (表彰年は2023年)(順不同)

NO.	地区	氏名	所属	選出理由
1	東京都	丸橋 英三	サバロ	2001年、2016年にも受賞経験あり。前年、功労者候補者に選出。主に伊豆諸島、五島列島を中心にイシガキダイ61、イシダイ12、合計73尾をT&R。再捕実績もイシガキダイ1、イシダイ1尾があった。
2	東京都	高橋 一郎	正会員	クロカジキ17、シロカジキ1、合計18尾をT&R。前年、功労者候補に選出。
3	千葉県	杉本 真一	レギュラー会員	2010年にも受賞経験あり。前年、前々年と功労者候補に選出。スズキ91、ブリ14、クロダイ1、キチヌ13、合計119尾をT&R。再捕実績もブリ1尾があった。
4	大阪府	河本 行弘	レギュラー会員	2012年にも受賞経験あり。前年、前々年と功労者候補に選出。スズキ52、ブリ4、クロダイ45、キチヌ2、合計103尾をT&R。再捕実績もクロダイ1、スズキ1尾があった。
5	大阪府	江口 太一	レギュラー会員	スズキ30、ブリ10、クロダイ17、サワラ1、キチヌ36、メバル19、カサゴ2、キジハタ1、合計116尾をT&R。再捕実績もスズキ1尾があった。
6	広島県	森岡 秀明	レギュラー会員	2016年にも受賞経験あり。前年、功労者候補に選出。スズキ18、ブリ1、クロダイ95、キチヌ7、合計121尾をT&R。再捕実績もスズキ2尾があった。
7	高知県	奴田原 寿展	レギュラー会員	アカメ26尾をT&R。再捕実績もアカメ4尾があった。
8	宮城県	高橋 勇樹	ACE	BOL北日本所属。マカジキ18尾をT&R。

2022年精力的に活動された、来年の年間功労者候補(順不同)

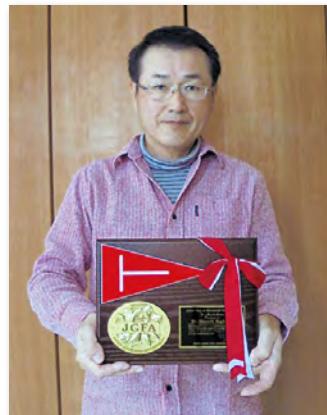
NO.	地区	氏名	所属	選出理由
1	東京都	高筒 敦彦	ブルーウィンド	2005年、2017年に受賞経験あり。スズキ48、ヒラスズキ2、合計50尾をT&R。
2	東京都	花木 喜英	正会員	スズキ49尾をT&R。
3	大阪府	小西 雅樹	スプラッシュ	前々年、候補者に選出。スズキ3、クロダイ14、キチヌ7、合計24尾をT&R。
4	大阪府	中村 幸平	シマノOCEA	前年、候補者に選出。スズキ9、ヒラスズキ23、合計32尾をT&R。再捕実績もヒラスズキ1尾があった。
5	徳島県	伊原 武志	レギュラー会員	2018年に受賞経験あり。ヒラスズキ34、ブリ1、合計35尾をT&R。再捕実績もヒラスズキ3尾があった。
6	大分県	財前 雄一郎	正会員	2013年に受賞経験あり。前年、候補者に選出。クロダイ17、ヒラメ2、マゴチ1、キチヌ14、合計34尾をT&R。
7	鹿児島県	福井 健三郎	グルーバーボーイズ	ロウニンアジ15尾をT&R。再捕実績もロウニンアジ1尾があった。

**丸橋 英三**

二回目の受賞、大変うれしく思っております。T&R活動はJGFAのメインとなる活動の一つであり、アングラー自身が直接行うことのできる有意義なものです。私自身はT&R活動が始まって以来、約40年実施してきました。最近はT&R活動に参加する方があまり増えないのが残念ですが、今後は今まで以上に「JGFA・T&R活動」の重要さを広く伝えていきたいと思っております。

**高橋 一郎**

T&R年間功労賞を頂きありがとうございました。カジキ釣り専門の私が初めてタグを打ったのは1989年7月ハワイでのクロカジキでした。2002年TBF(The Billfish Foundation)のメンバーリースになり、国内外で釣ったカジキの殆どにタグを打ち、2017年の世界でT&Rのトップアンガラーになりました。現在T&Rの累計は799匹ですが、1000匹を目指してT&R普及に貢献していきたいと思います。

**杉本 真一**

自分の初タグは2003年、ちょうど20年。始めたきっかけは単にキャッチ数、サイズ、釣れた時期が後からでも確認できるから。二度の表彰を受け、今はタグ&リリースの本来の趣旨を伝えられるようになりました(笑)。これからも現場へ通い、釣り場のみんなが楽しめるよう活動を続けようと思っています!

**河本 行弘**

二度目のT&R年間功労賞に選出していただき、誠にありがとうございます。今回は「私がリリースしたクロダイを息子が再捕する!」といった出来事もあり、リリースの大切さを親子そろって感じることができました。これからも釣ってくれた魚に感謝し、T&Rを続けていきたいと思います。

2022年度のT&R活動に貢献して頂いた方(順不同)

NO.	地区	氏名	所属	2022年度の実績	受賞年
1	北海道	杉本 勝	グループボーラーズ	クロマグロ3	
2	北海道	菅原 潤	クラブ ゴールデンドリーム	クロマグロ1	16
3	北海道	加藤 達也	レギュラー会員	ブリ7、ヒラマサ7	
4	岩手県	村脇 健司	サポート会員	スズキ2、ヒラメ3、クロソイ2	
5	山形県	星川 徹	レギュラー会員	ブリ1	18
6	東京都	江川 典男	WILD OCEAN	ヒラスズキ3、(再捕実績:ヒラスズキ1)	09
7	東京都	泉 勇也	マーメイドアングラーズC	スズキ429、サワラ1、マゴチ1、(再捕実績:スズキ3、マダイ1)	22
8	東京都	木村 則夫	ブルーウィンド	カンパチ184、ギンガメアジ120、ヒラマサ3、ヒレナガカンパチ1、(再捕実績:カンパチ7、ギンガメアジ2)	20
9	東京都	岡野 伸行	レインボーキャブ	クロダイ1、キチヌ1	
10	東京都	堀江 幸雄	レッドヘッダーズ	スズキ2	
11	東京都	宇田川 昭彦	ソルトウォーターハウス フィッシングクラブ	マダイ1	
12	東京都	斎藤 悅朗	鉄心倶楽部	スズキ6	
13	東京都	高野 源太	レギュラー会員	イシガキダイ2、(再捕実績:イシガキダイ1)	
14	東京都	酒井 順一朗	サポート会員	マゴチ17、その他1	
15	神奈川県	茂木 陽一	グループボーラーズ	キハダ1、ヒレナガカンパチ1	
16	神奈川県	大久保 和弘	グループボーラーズ	スズキ63、クロダイ18、ヒラメ1、マゴチ2、マルタ2	01,22
17	神奈川県	塚原 一三	マーリンマイスタークラブ	スズキ225、ブリ4、クロダイ2、アイナメ1、(再捕実績:スズキ27)	22
18	神奈川県	平松 慶	レギュラー会員	ブリ16、ヒラマサ1、その他2	04.20
19	神奈川県	伊藤 義明	正会員	スズキ12、クロダイ10、ヒラメ2、マゴチ9	14, 20
20	神奈川県	長谷川 貴洋	レギュラー会員	スズキ6、クロダイ4	

【2022年度タグ&リリース年間功労者】



江口 太一

2022年は、釣りに関して言えば成長できた一年でした。釣行回数は88回。総釣魚数は40種480匹でした。タグガンを忘れた日もありましたが、かなりの数をリリースでき、タイやメバル等、おいしい魚も食べる分だけを持ち帰り、台所がてんやわんやになることもなく、家族共々幸せに過ごせました。



森岡 秀明

名誉ある賞にご選定いただき有難うございました。私の活動が瀬戸内の魚達の生態調査に微力ながらお役に立つことができれば嬉しく思います。仕事の都合で数年日本を離れますが、JGFAの益々のご発展と、リリース意識の普及、そして皆様に沢山の魚との出会いが訪れますことを祈念致しております。



奴田原 寿展

最高に嬉しいです。朝も深夜も呼ばれる事が有りました。自分も知りたい！ 衝き動かされました！ あと10年位かも、体力勝負ですね。諸先輩達、有難う御座いました。保護活動を、若い子に渡せると良いと願います。技術革新、GPS付きで位置情報、移動時間などを把握できる可能性が有りそうです。驚きの新事実に期待です！



高橋 勇樹

今回、このような賞をいただきましたこと、とても栄誉のあることと感じています。JGFA会員である諸先輩方のご指導とよきメンバーに恵まれたおかげです。本当に心から感謝を申し上げます。

2022年度のT&R活動に貢献して頂いた方(順不同)

NO.	地区	氏名	所属	2022年度の実績	受賞年
21	神奈川県	谷口 公彦	レギュラー会員	ロウニンアジ5	
22	千葉県	若林 務	レッドヘッダーズ	マゴチ1	
23	千葉県	猶原 正和	サバロ	スズキ35、ヒラズキ7、ブリ2、クロダイ16、バラエダイ1、ヒラメ1、マダイ2、ロウニンアジ2、(再捕実績:ヒラズキ1)	06、19
24	千葉県	島田 勝美	WILD OCEAN	ヒラズキ6	01
25	千葉県	山口 徹	正会員	ヒラマサ288、メバル1、(再捕実績:ヒラマサ5)	11、18
26	千葉県	田村 郷	レギュラー会員	スズキ4	18
27	千葉県	石川 政明	正会員	ヒラズキ8、(再捕実績:ヒラズキ1)	95、08
28	千葉県	吉清 良輔	レギュラー会員	ヒラマサ39、(再捕実績:ヒラマサ1)	20
29	千葉県	標 信男	レギュラー会員	マハタ1、(再捕実績:マダイ1)	
30	千葉県	立川 雅敏	レギュラー会員	ヒラマサ1	
31	千葉県	吉澤 竜郎	レギュラー会員	タチウオ16	
32	茨城県	森田 琢磨	サバロ	ブリ1	17
33	茨城県	渡邊 洋治	カウントダウンFC	スズキ14	10、20
34	茨城県	小松 雅弘	カウントダウンFC	スズキ86	03、14、20
35	茨城県	小松 孝尉	カウントダウンFC	スズキ2、ヒラメ3、マゴチ1	
36	埼玉県	加藤 靖暁	マーメイドアングラーズC	スズキ445、クロダイ4、ヒラメ1、キヌ1、(再捕実績:スズキ2)	09、19
37	埼玉県	坂本 幸博	終身会員	ブリ1、イシガキダイ5、イシダイ1、ヒラメ3、マゴチ1	20
38	静岡県	伊賀上 達也	レギュラー会員	スズキ1	
39	静岡県	新居 浩史	レギュラー会員	アカメ1、ヒラマサ2	
40	静岡県	服部 真司	レギュラー会員	スズキ1、ヒラズキ1、ヒラメ6、マゴチ5、オオニベ1	

2022年度のT&R活動に貢献して頂いた方(順不同)

NO.	地区	氏名	所属	2022年度の実績	受賞年
41	静岡県	鈴木 忠文	レギュラー会員	カンパチ27	
42	愛知県	宮田 雅弘	レギュラー会員	スズキ2、ヒラスズキ14、ブリ3、マゴチ2(再捕実績:ヒラスズキ1)	
43	愛知県	尾川 定	サポート会員	アカハタ1	
44	大阪府	和氣 恒久	サバロ	スズキ29、クロダイ60、ミナミクロダイ3、キチヌ2、(再捕実績:スズキ1)	99.13.20
45	大阪府	松浦 昌治	スプラッシュ	ヒラスズキ2、クロダイ34、ヒラメ1、キチヌ14	90.91.19
46	大阪府	田中 大喜	スプラッシュ	スズキ5、クロダイ2、キチヌ15、(再捕実績:クロダイ1)	20
47	大阪府	出水 鉄次	レギュラー会員	クロダイ1、カンパチ1、メジナ1	
48	大阪府	高橋 健	レギュラー会員	ヒラスズキ5、クロダイ8	18
49	大阪府	杉中 沙樹人	レギュラー会員	カンパチ1	
50	三重県	稻垣 達也	サポート会員	スズキ6	
51	和歌山県	中前 悅尚	歌舞伎者	クロマグロ3	10.21
52	兵庫県	長堀 寛	スプラッシュ	スズキ1、シイラ1、ブリ3、(再捕実績:ブリ1)	05
53	兵庫県	松元 秀樹	サポート会員	スズキ2、ブリ1	
54	高知県	長野 博光	正会員(個人)	アカメ6	01
55	高知県	竹村 浩昭	レギュラー会員	アカハタ2	
56	高知県	前田 尚俊	レギュラー会員	アカメ35、(再捕実績:アカメ8)	22
57	愛媛県	本多 恵介	ANNET (アネット)	マダイ2、キジハタ1	
58	愛媛県	公文 靖	レギュラー会員	スズキ5	
59	熊本県	高木 真也	アップストリームSAC	スズキ1、ヒラスズキ13、クロダイ2、タイリクスズキ47、マダイ1、メバル23、(再捕実績:タイリクスズキ2、ヒラスズキ2)	09.19
60	大分県	原田 智昭	バホバホ	オオモンハタ4	
61	大分県	平松 雅直	JX金属製錬 Fishing Club	スズキ5、ヒラスズキ1、マダイ1	96
62	大分県	景平 真明	レギュラー会員	スズキ41、ヒラスズキ7、(再捕実績:スズキ4)	15. 21
63	沖縄県	富松 賢祐	レギュラー会員	ロウニアジ1	
64	沖縄県	坂本 貴男	レギュラー会員	ロウニアジ2	



【2022年度タグ＆リリース年間功労者】

タグ＆リリースを始めていただいた方をピックアップ！

長田 茜さん

2023年2月から活動を開始、主にスズキが対象魚



「私がタグ＆リリースを始めたのは、魚の生態調査に協力したいと思ったためです。JGFAの素晴らしいこの事業を知り、即入会させていただきました。年々減ってきてていると言われているシーバス。資源保護の為にも、一人一人がきちんとと考えなければ未来はない。この活動は釣り人としての義務だと私は思っています！ 生態調査への協力が目的ではあるものの、先輩方から聞いた『自分でタグ装着をした魚が元気で生き続け、再捕されることも多い』という事実は、ゲームフィッシングを愛する者として何よりの喜びだと感じます。

私の発信で既に数名の方が興味をもってくださいり、中にはタグ＆リリースの為にJGFAに入会したという嬉しい報告もいただきました。こうして協力してくれる釣り人が増えることがとても大切なことで、タグ打ちも引き続き頑張りつつ、この活動の普及に貢献できるように今後も発信していきたいと思います。」

服部 真司さん

2021年10月から活動を開始。サーフから釣れるヒラメを中心にタグ＆リリース



「仲間が年に数回、ヒラメの稚魚放流活動をしてくれており、自分もアングラーとして釣りのために何かできないかと思っていた時に、この活動があるのを思い出し参加するに至りました。私は普段サーフヒラメをメインで釣りをしているが、ヒラメのタグ＆リリースの実績を見ると、シーバス等と比べ非常に少ないことがわかります。このヒラメのタグ放流を増やし、どのような成長、分布、移動などをしていくのか個人的にも非常に興味があることも動機の一つです。

実際にタグ＆リリースをやってみると、魚を無事に海に戻すために、取り扱いに非常に気を使うようになりました。私がリリースしたヒラメが再捕された時は、本当に嬉しく思いました。その時は別のアングラーの方による再捕でしたが、いつも「また会おう」と言ってリリースしている魚と今後本当に巡り合う日が自分にもくるかもしれません。それが確認できるタグ＆リリースには口マソւらを感じました。」

ASSOCIATE MEMBER LIST

贊助会員メンバーズ・リスト



贊助会員募集

「いい釣りをいつまでも。」をスローガンに、スポーツフィッシングの普及を目指すJGFAをぜひサポートしてください。

- 特典**
1. 賛助会員主催のイベントを後援します。(ただし後援規定に基づくイベント)
 2. 実費プラス手数料で、会社パンフ、アンケートなどを会員に発送するDMサービスをご利用いただけます。
 3. JGFAイヤーブックに紹介記事が載ります。
 4. JGFA NEWS(年4回発行の会報)とホームページにロゴマークが載ります。
 5. 代表者と担当者の2名は、JGFA及びIGFAの会員として登録されます。
 6. 代表者は、JGFAのパーティーにご招待します。

会費 1口 100,000円(1口以上)

備考 代表者と担当者以外で、会員登録を希望する企業内の方は、年会費6,000円を加算いただければクラブメンバーと同様の特典が得られます。

問い合わせ先: JGFA事務局 ☎03-6280-3950

タグ購入代金カンパにご協力を

皆様がお使いのアンカーやスパゲティタグもタータグSも、協会が購入する原価でセットあたり2000円します。年間500セットほど皆様に配布いたしておりますので、単純計算で100万円、ちょっとした金額です。そこで皆様にお願いです。クラブ主催のトーナメント、パーティ、忘年会などの機会を捉えて募金箱を回し、「タグ&リリース活動資金カンパ」を行っていただけませんでしょうか。もちろん、個人や企業の皆様からのご寄付もよろこんでお受けいたします。ゲームフィッシュの生態解明のため、釣り人ができる大きな貢献であるタグ&リリースをこれからも継続し、私たちが資源保全に真剣であることを示すため、ぜひご協力をお願いいたします。お振込先の情報は以下のとおり、なにとぞ検討を。

銀行名:みずほ銀行 恵比寿支店
口座名:「タグ アンド リリース活動資金」
口座No:(普)1561275

タグ&リリース寄付者リスト

タグ&リリース活動資金にご寄付いただきましてありがとうございました。
心よりお礼申し上げます。引き続き募集しておりますので、
ご協力くださいますよう、お願ひいたします。(順不同・敬称略)

タグ&リリース寄付者リスト		
2023/2/15	長舗 毅一郎(TRUE BLUE Fishing Club)	19,000
2023/2/24	田原 徹(レギュラー会員)	2,000
2023/3/15	長舗 毅一郎(TRUE BLUE Fishing Club)	19,000
2023/4/12	長舗 毅一郎(TRUE BLUE Fishing Club)	19,000
2023/4/13	北川 リサ 美智子(レギュラー会員)	7,317
		合計:66,317